

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970101818		
法人名	有限会社 とらい・あんぐる		
事業所名	グループホーム花水木		
所在地	奈良市古市町2157-5		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaihosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク		
所在地	奈良県奈良市内待原町8番地 ソメカワビル202号		
訪問調査日	平成21年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の意向を尊重し尊厳を保持しつつ地域社会の中での安定、安心した生活が送れるにはどうすることが最良なのか、日々の触れ合いの中から気づき理解しながら支援していくことを目標としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者が主役」という考え方を基に、基本的に大切なところをしっかりと押さえた介護がなされている。食事は、旬の食材を使った手作りのもので盛付や味もよく、利用者も職員もみんな楽しんでる。毎日のレクリエーションにも積極的に取り組んで、残存機能を活用し、病気を予防して利用者の元気を支えている。ベッドは介護用のベッドではなく、落ち着いた木製の幅が広いものが用いられている。重度化が進む中、おむつをつけないケアに取り組むなど、利用者本位のこだわりが感じられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本人の意向を尊重し、尊厳を保持しつつ地域社会の中で安心した生活を営む事が出来るよう職員に運営方針を伝達し、理念を共有しながら実践取り組んでいる。	一日をどう楽しく過ごしていただくか、スタッフ全員で考えながら援助している。利用者が主役になれるよう心がけている。また、地域とのかかわりが絶えないように意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の理解を得て地域活動(例えば簡単な清掃等)に参加したり、自治会のレクレーションに参加したり、地域との交流を図り地域の一員としての日常生活に取り組んでいる。	昨年から自治会に加入できるようになり、自治会の草取りなどの行事や親睦会にも参加している。事業所の夏祭りなどの行事にも、近所の人に参加してもらっている。地域の方にも利用していただけるようにAEDの設置を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し敬老会に招待されたり、町内の祭りの休憩所として場所を提供したり、幼稚園のお迎えの場所を提供したり、地域との交流を図っている。又施設の行事にも地域の方に参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、地域関係者に参加していただき当施設の方針や目的を説明し理解を得ている。又意見やアドバイスを参考にし、サービス向上に取り組んでいる。	現在、年2回開催している。運営推進会議を通して、事業所の取り組みや行事の案内、外部評価の結果などを報告している。自治会に加入でき、地域との交流が増して理解が深まっている。	もう少し会議の回数を増やし、事業所と地域の季節ごとの行事の予定や情報交換ができることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センターと交流し、情報収集やアドバイスを受けながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の主催の研修会などに参加している。申請書類の提出や生活保護受給の関係で、関係部署と連絡を取り合っている。	ホーム便りなどを直接届けるなどして事業所の取り組みを報告し、市とより密な関係づくりが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切ないが、建物の前面が道路の為、いかしかたなく玄関一ヶ所のみ施錠している。家族の了解を得ている。	門を出たところが交通量の多い道なので鍵をかけているが、玄関はかけていない。徘徊傾向のある人は、落ち着くまでなるべく散歩やドライブに出かけるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為は一切ないが、事業所内での虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強する機会には恵まれていないが、今のところそれらを活用する場面がない。いずれは制度の理解と活用を出来るように取り組みたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項として十分に説明し理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等については敏感にとらえスタッフ全員が周知している。	主に面会時に、家族の思いを聴いている。面会の少ない方は、電話で連絡を取り合っているが、要望は少ない。運営推進会議のときに、家族代表者に出席して意見を述べていただいている。	家族の面会時には、改めて事務所で意見や要望がないかお聞きする機会を設けると共に、電話でもより意識的にお聞きすることが望まれる。また、意見を頂くためにもホーム便りに個人の近況を一言添えられることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議を開催し報告、連絡、相談等を密にし、運営に関する職員の意見を反映させ、質の向上に取り組んでいる。	職員全体で援助するためにも、月一回の職員会議において全員で話し合いをしている。また、日頃から職員に気軽に意見を言ってもらい、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修資料を回覧や掲示し職員に周知し支援している。外部研修についての参加費の負担軽減や参加支援などの体制作りを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との職員と交流をもち、相互訪問等の活動を通じて意見交換等を行いサービスの質の向上にむけて情報提供の取り組みを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎月一回スタッフミーティングを開催し、利用者から知り得た情報をもとに利用者の意向を傾聴し、プライバシーを尊重しつつ安心していただける信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と密に連絡を取り、困っている事、不安な事、要望等を傾聴しつつ信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの意見や要望について敏感にとらえ、必要としている支援を見極め他のサービス利用を含めた対応にスタッフ全員がケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの性格を把握し、出来る限り話し相手になるようにスタッフ一同聞き上手に徹している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者や家族の意向を重視し家族とスタッフの信頼関係を築き、共に同じ視点で利用者を支えていく関係を築けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親せきの方や知人の方には施設でのイベント等をお知らせし参加をお願いしている。	友人や知人が面会に来られることもある。昼食時には、一緒に食事をしていただくこともある。地域に住んでおられた方が少ないが、地域住民との挨拶など自然なふれあいを大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が仲間意識を持てるようにスタッフが橋渡しとなりお互いのプライドを尊重しつつ支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人、家族の相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの性格を把握したうえで、声掛けを行い出来る限り傾聴する時間を持ち、利用者の意向にそって尊重と尊厳を保持しつつ、その人らしい生活が出来るように支援している。	主役は利用者である事を意識し、食べたいものや行きたいところなど、職員が個々の利用者にゆっくり関わる中で思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの物や、お気に入りの物などを持参していただき家庭的なふんいきの中で落ち着いた暮らしをしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	強制や束縛せず、又一日のタイムスケジュールを設定せず利用者の意向を取り入れながら現状を総合的に把握した快適な暮らしをしていただくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	報告、連絡、相談を密にし随時意見交換を行い、質の向上に取り組んでいる。利用者、家族あるいは必要な関係者の意見を重視し、様子観察を行いながら介護計画に取り組んでいる。	本人や家族の思いを尊重し、職員や医者などの意見を取り入れて介護計画が立てられている。3ヶ月ごとに計画の評価が行われ、職員間で話し合っており、継続や変更が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の様子観察を介護ノートに記入し、スタッフ全員が共有する体制をとっており、随時介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活する場面において要望に応え、出来る事を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園や、小学校、ボランティア活動の方々と交流を図り、利用者が出来ることを協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度定期訪問受診を実施しており、主治医より常にアドバイスを受けて、相談したり信頼関係を保ち利用者の健康管理に努めている。その都度家族にも報告し要望を聞いている。	月に2回かかりつけ医に往診してもらい、利用者の半数ずつ診てもらっている。病院に通院するときは、家族と相談し、家族がこれないときは、職員が付き添うようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師や地域の看護師に気軽に相談し適切なアドバイスを受けながら健康維持に努めている。施設の看護師には家族の要望等を伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療機関との情報交換や相談に努めている。常に医療機関とは連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた研修に参加し、スタッフ全員が方針を共有し、チームで支援が出来るように勉強会を開催し、終末期の変化に備えて検討し準備に努めている。	ターミナルケアの研修会に参加し、職員でどう取り組むか話し合っている。契約書の中に、できる限りターミナルケアに取り組むことが書かれており、本人や家族の思いを大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	朝の申し送り時に利用者の状況に応じて急変や事故発生時の応急手当や医療関係者の指示を受けるように説明し対応策を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器や誘導板、火災の早期発見に備え、火災報知器等設置し万全の対策を図っている。避難訓練等も取り入れ地域の方の協力もお願いしている。	消火器や火災警報器、火災通報装置などを設置している。また月に一回、避難訓練を実施し、夜間想定訓練も行っている。運営推進会議でも、地域の協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳を保持し言葉掛けや対応には気をつけ入室時には声掛けやノックをしている。プライバシーや誇りを損ねないよう人格を尊重している。	居室に入るときは、必ず声かけをするようにしている。みんなのいるところでのトイレ誘導は、まわりに配慮し耳元で声かけをするなど個々に合った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を重視し、自己決定の中で生きがいを見い出していただけるように、スタッフの思いこみから気づきのケアに徹している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活する場面においては、スタッフも家族の一員となり本人が出来ることを相談しつつ希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問美容に来ていただき希望にそったヘアスタイルを実施していただいている。又本人、家族の要望により好みの洋服や化粧品等の買物に同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食材を提供している。職員と共に共同作業をしていただき、利用者とコミュニケーションを図りながら笑いの中で食事が楽しめるように努めている。	利用者の希望も聴きながら旬の食材を用い、すべて手作りで、盛付や味もとてもよい。箸やお茶碗などは個人用のもの使っている。利用者もできる範囲で準備や片付けを行い、職員も一緒にテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフの中に栄養士の経験者が在籍しており、相談しながら献立表の工夫や水分量等を確保出来るよう		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。スタッフの見守りの中でアドバイスをしながら、時間をかけて口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に個々の排泄状況を把握し、排泄の失敗や不快感、おむつ使用をへらし、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	丁寧に排泄チェック表をつけて排泄パターンを把握し、こまめに声かけやトイレ誘導をしている。ほとんどオムツを使わず、紙パンツやパットで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に向けて調理の工夫や水分補給等に努めている。適度な運動や主治医に相談、アドバイスを受けながら個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者同士のトラブルを避けるため、一応曜日ごとに決めているが、本人の希望があれば随時入浴していただいている。週に一度は足浴も実施している。	基本的に朝を中心に、冬は2回、夏は3回入浴している。希望者には随時入ってもらうこともある。また週に1回、足浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々にあった生活の場を提供している。その人らしい生活をモットーにし、安心して気持ちよく快眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を把握し、服薬の知識を高め目的や副作用、用法、用量について理解し、様子観察の中で症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、お茶やお花を生けるなどの役割をしていただき他の利用者スタッフを楽しませていただいている。おやつレクリエーションにも昔のお菓子作りの知恵などを提供していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や季節により散歩は日課の一つとして実施している。ドライブ予定日、買物予定日には、朝のおやつタイムに全員で相談し、希望の場所へ出かけるよう努めている。	散歩は、天気の良い日は朝を中心に毎日出かけるようにしている。また、車でドライブをしたり買い物に出かけることもある。気候がよいときは、外にテーブルを出してお茶を楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に関しては、他の利用者とのトラブルを予測し買物等には事業所が立て替えている。家族の了承を得て行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキは規制していないが、電話については規制している。電話使用については家族の意向も取り入れ了解を必要とする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には利用者の手作り作品を飾り、備品も一般家庭にある物を選んでいる。リビングのすみには季節の花を飾り、季節感をたのしんで頂いている。コーヒータムにはバクミュージックを不快感のない音量で楽しんでいただいている。	居間には、テーブルを中心に座りやすい回転式の椅子が置かれている。玄関にはソファも置かれている。壁には、利用者がレクリエーションで作られた作品が飾られている。居間と居室は完全に壁で仕切られておらず、天井の所は風が通るようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場面において居場所を提供し話しに花が咲くよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向に沿ってなじみの物品など使い慣れた物を持参していただき、居心地良く過ごしてもらえるように努めている。	居室は、10畳ほどの広さで、事業所で設置された木製のベッドが置かれている。幅が広く落ち着きがあって、とてもよい。使い慣れた個人の品物が少し少ないように思えた。	新たに入居される場合は、できれば家庭訪問をし、本人や家族と共に持ち込む品物について、話し合われることが良いと思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい生活を営んでいただけるように工夫し、傾聴の時間を持ち、希望にそった生きがいの有る暮らしが出来るように自立に向けて支援している。		